

K P O北京レポート 2018年5月

K P O北京事務所 崔 万哲

Tel: +86-10-8454-9400 Fax: +86-10-6282-7371

E-mail: cuiwanzhe2001@126.com / cuiwanzhe2001@hotmail.com

1. トピックス

■端午節3連休の旅行、[安近短]か

端午節（今年は6月18日）に合わせて16-18日が3連休となる中国。同連休中は、長距離旅行に行く人は少ない一方、ネット上では「近場旅行」や「ドライブ旅」が人気検索ワードとなっている。

旅行サイト「Mafengwo 旅行網」データ研究センターによると、同連休は、多くの人が近場にプチ旅行に行くことを選択している。その数は清明節（今年は4月5日）3連休、メーデー3連休よりはるかに多くなっているという。

「Mafengwo」のビッグデータによると、同連休中に人気となっている中国国内の旅行先は、北京、成都、上海、重慶、西安、廈門（アモイ）、杭州、広州、三亜、青島で、沿岸部の都市が大半を占めている。

2. フライトスケジュール

■北京発 — 関空着（週）

就航期間	便名	日本着曜日	現地発時間	日本着時間	経由	備考	771時間
180601-180630	CA927	月火水木金土日	0840	1240		NH5722(S)	3:00
180601-180630	MU525	月火水木金土日	1010	1415		JL5676(S)	3:05
180601-180630	MU277	月 水 土	0945	1530	YNT	JL5656(S) YNT-KIX間のみ	4:45
180601-180630	ZH9055	月火水木金土日	1350	1750		NH6604(S) CA3355(S)	3:00
180601-180630	NH980	月火水木金土日	1420	1820		CA6655(S) ZH3215(S)	3:00
180601-180630	CA161	月火水木金土日	1625	2030		NH5724(S)	3:05

出所：関西国際空港

3. 現地の観光情報

■第22回「日本企業に近づき、日本を体感する」中国人大学生代表団が訪日

日中経済協会の招きで、5月31日から6月5日にかけて、第22回「走近日企・感受日本」に参加する中国人大学生代表団33人が東京、京都、神奈川などを訪問した。

訪日期间中、同代表団は京セラや住友商事、三井住友銀行、テルモ医学育成センター、凸版印刷、ホテルニューオータニなどの大手企業を訪問し、その主な業務、イノベーション意識、人材育成などについて理解したほか、最先端技術や管理理念などを学んだ。また、名門の京都大学と早稲田大学も訪問し、日本の大学生と、教育、文化、キャリアプラン、人工知能、新エネ車など、共通の関心事をめぐる交流を行った。京都・高台寺では日本の茶道、座禅を体験した。

同代表団は、清華大学、中国人民大学、对外経済貿易大学、北京語言大学、首都医科大学、及び外交学院などで学ぶ大学生で構成。（中日友好協会網）

■17年飲食業収入ランキング、広東省が首位

5月10日、中国ホスピタリティ協会が発表した「2018中国飲食業年度報告」で、17年度の中国各省・市の飲食業の収入ランキングが掲載された。

報告によると、広東省の飲食業の収入が前年比5.9%増の3680億3000万元で首位だった。以下、山東省3602億6000万元、江蘇省3076億6000万元と続いた。北京市は1028億8000万元で14位だった。

飲食のジャンル別に見ると、「団体客」に定期的に食事を提供する「団餐」業界の売上高が約30%増加、店舗数が33%増加し、飲食業界のダークホースとなった。その他、デリバリー市場が引き続き急速に成長し、前年比23%増の2046億元規模に達した。（北京商報）

■中国、ショート動画アプリのユーザーが3億5000万人に

中国では現在、ショート動画アプリがブームとなっている。6月12日、ショート動画アプリの「抖音（Tik Tok）」が初めて発表した統計によると、現時点で、同アプリの中国国内のデイリー・アクティブユーザーは1億5000万人、マンスリー・アクティブユーザーは3億人を超えた。調査会社・艾媒諮詢（iiMedia Research）の統計によると、18年、中国のショート動画のユーザーは3億5000万人に達し、今後、さらに拡大する余地があるという。（人民網）

4. クローズアップ

■便利な宅配サービス

先日、お世話になっている方が宿泊予定の上海のホテルに書物を送ったが、受け取りを拒否されたとのことで荷物が北京に引き返される羽目になった。どうしても期日中に届ける必要があり、サービスに定評がある順豊速運という会社に頼みなおした。宅配時間が指定でき、依頼品の移動をスマホなどで追跡できる。場合によっては配達員に直接アプローチすることも可能だ。案の定、無事着となった。

中国の宅配業務は、「1日当たりの取扱数が1億個の時代に突入」し、市場の規模は2014年以降、世界一をキープしているようだ。

中国国家郵政局が先ごろ発表した17年上半期の宅配便業界の統計は、多くの人を驚かせた。今年第二四半期（4-6月）以降、中国ではすでに1日当たりの宅配便の取扱数が1億個が常態となる時代に突入した。12年は通年で56億9000万個だったのが、16年には312億8000万個まで増加し、今年は上半期で既に173億2000万個に達している。宅配便の業務量が急増しているだけでなく、中国の宅配便はサービスも向上し続けている。例えば、配達にかかる時間はおよそ58-60時間で、72時間以内に配達できた割合は12年の72.4%から16年には75.53%に上昇した。配達距離が1000キロ以下の宅配便の場合、84.62%が48時間以内に宅配を完了するという。

中国の宅配便が急速に発展している背景には、宅配業界のサービスチェーンが伸び、宅配市場が規範化されるようになったこと、また、スマート端末の活用やサービスの概念のグレードアップなども大きいといわれている。

順豊速運は、1993年に広東省仏山市で創業し、今では傘下に貨物輸送機37機を擁する規模まで成長した。そして、17年2月、香港証券取引上での上場を果たした。初日の時価総額は337億ドルに達し、CEOの王衛氏は個人資産がなんと200億ドルに近くにくらんだ。

日本でもお馴染みの国際スピード郵便（EMS）を扱う北京EMS快通公司はこのほど北京市郊外に新たな処理センターを建設し、EMSの集荷・仕分け、発送、中継を一体化した。同会社の説明では、「稼働後の処理能力は1時間あたり4万件、一日あたり70万件に達し、EMSの即日発送率は98.5%を超える」という。

中国の宅配企業の海外進出も目覚しく、従来のEMSに加え、順豊、申通など業務範囲を日本や欧米などに広げている。

申通（STO. Express）と順豊速運（SF Express）が設立した日本法人は、日本郵政と提携して中国の消費者が通販サイトで注文した商品をエンドユーザーに届けるサービスを開始。ドイツ・ライプツィヒ・ハレ空港が所属するMitteldeutsche Airport Holding社はこのほど、順豊速運と業務提携することで合意。同空港は今後、順豊の欧州における航空ターミナルとなる。

既に「世界一」の座に就けているものの、よりスピーディーで、より良質なサービスを提供するため、中国の宅配業界ではロボットなどの最新の技術を活用しはじめたようだ。（了）